

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700117		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県恵那市三郷町野井1736-244		
自己評価作成日	平成29年2月22日	評価結果市町村受理日	平成29年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JijvsvCd=2191700117-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JijvsvCd=2191700117-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年3月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」グループホーム楓は車椅子になっても安心な設備を整えていますので、ADLの変化による居住環境を変える事なく、慣れ親しんだ場所で安心して生活を続けていただく事ができます。人の五感を大切にされた空間や庭園、農園など、敷地内に居ながら四季を感じ、楽しんで頂く事ができます。また、スカイプ通話により、ご家族様や遠方にお住まいのお子様と、いつでもテレビ電話で顔を見てお話をさせて頂く事が可能です。自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や、地域の方を交えた施設行事を行い、入居者様と地域住民の皆様が顔なじみの関係となれるよう、職員が一丸となり取り組んでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、樹木や棚田に囲まれた静かな山間に立地し、木曾山脈最南端にある恵那山も見える。利用者は、日々慣れ親しんだ風景に触れながら、安心して、穏やかな生活を送っている。家族からも、終の棲家としての期待が大きい。職員は男性が多く、女性職員と役割を効果的に活かしながら、質の高いサービスを提供している。また、朝礼・終礼で、職員間の意思疎通を図り、連帯感を高めながら、利用者が最期まで、その人らしい人生が送れるよう、一丸となって取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念の下、業務に当たるように努めております。また、業務日報に記載し、常に意識をすることでサービスの質の改善に繋がるように努めております。	理念は、短く明快である。日報やパンフレットなどを目立つ位置に明記し、その意義を朝礼の場で確認している。職員と家族が、同じ屋根の下で暮らす家族のように、共に感じ合いながら、笑顔のある暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方より、お声をかけて頂き、地域の行事に参加をし、交流の場を設けている。	自治会からは、地域行事の案内が廻っている。地元の祭りや運動会、防災訓練等に参加をし、保育園とも交流を行っている。また、近所の障害者夫妻の相談に応じたり、農家からは、収穫物の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時ボランティアを受け入れており、実際に利用者と触れ合っていたいただき、認知症を理解して頂けるよう努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現状報告をし、ご意見を頂いております。頂いた意見を元にスタッフ間で意見を共有し、サービスの向上に活かせるように努めております。	運営推進会議では、運営の実情や行事計画を報告し、意見を交換している。経営の安定化、地域や家族との関係づくり、事故対策、職員確保の課題など、多様な意見を話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議への参加を依頼し、担当者で相談を行っている。定期的に市役所を訪ね、情報交換を行い、協力関係が築けるように努めております。	市の担当者へは、運営の実情を定期的に伝えられている。また、市の窓口で直接出向いて、成年後見制度や申請書類などで相談し、助言を得たり、情報交換を行っている。年に1回の事業者連絡会にも出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のモニタリングを行い、身体拘束が必要と思われる行為の原因を取り除く事に努め、代替案が無いかの話し合いを設けております。玄関の施錠に関しては、ご本人様からの外出希望があった場合は付き添いのもと、支援をしております。	身体拘束は、原則禁止として取り組んでいる。転倒予防のベッド柵については、家族の同意を得ている。不穏になる人には、できる限り安心感を与えるように工夫をしている。また、言葉による制限についても、職員間で周知徹底し、拘束につながらないよう努めている。	身体拘束の弊害や、具体的な事例と法令の対象基準を正しく学び、職員間で共通した認識を持ち、共有することが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症実践者研修の受講や高齢者虐待防止の資料を作成し、職員に周知すると共に、スタッフ同士で意見交換が行えるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、スタッフに対し、成年後見制度について説明を行うと共に、各自で自主的に地域で行われている研修への参加を促しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に施設見学を行って頂き、ご説明、ご了承を頂いている。また、多くの方がご心配される事柄については、その都度、ご説明し、不安が取り除けられるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の意見箱を設置し、ご家族からの意見を頂いている。また、行事や面会の際にもご意見を頂き、朝礼等で話し合い、望まれる生活をして頂けるように努めております。	家族の訪問時に、意見や要望を聞いている。終末期支援についてや、通院の代行、外出を出来るだけ多くしてほしいなどの要望がある。また、制服の色が気になるとの意見もあり、それらを検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、意見が出し易い環境作りに努め、朝礼や終礼等で意見交換を行い、改善が必要な場合に関しては、提案を行い、全体で共有をしております。	職員からの意見は、朝礼と終礼の場で聞き、さらに個人面談の場もある。ケアの気づきや改善点、安定的な夜勤者の確保について話し合い、終末ケアの対応についても検討し、介護の質の向上に取り組みながら、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場に入る事で職員一人一人の勤務態度や努力、実績を把握し、向上心を持って勤務ができる様な環境の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任を持って業務に当たるように努めている。また、介護マニュアルを作成する事で質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に事業所を巡り、外部との繋がりを持つと共に、他施設との情報交換も行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご本人の希望や思いに傾聴し、望まれる生活を伺い、ご本人の思いに寄り添った支援ができるように心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、ご家族の現在の介護状況や入居等に対して不安に思っている事を伺っている。また、入所後はご本人の様子を面会時や電話でお伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時にご本人やご家族と面談し、要望を確認する事で、その時のご本人にあったサービスの提案をさせていただき、希望に沿った支援ができるように心がけております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の様な関係を築く事が出来るように、日々の生活の中で、ご本人とお話をさせて頂く機会を設け、ご本人の思いに傾聴できるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はご家族へ、施設でのご本人の状態報告を行い、情報を共有すると共に、ケアプランにご家族の意向を取り入れ、一緒に支援が行えるように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スカイプを使用し、遠方の方とでも、お話ができる様な環境作りを行っております。また、顔馴染みの方の面会時は気兼ねなくお話ができる様な環境作りも行っております。	親戚や家族が頻繁に訪れ、利用者は、ゆっくりとした時間を一緒に過ごしている。遠方の家族とは、スカイプ通信を活用している。自宅周辺や馴染みの場所へは、家族と協力して、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、レクリエーションやお手伝い等を促し、ご利用者同士が円滑にコミュニケーションを図れるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご本人やご家族の介護に対する、不安や悩み等のご相談を頂いた場合は相談や支援が行えるように努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員がご本人の希望、意向を理解しようと努め、得た情報をみなで共有し、ご本人の思いをみなで検討し、再度アプローチをするよう関わっております。	意思疎通が困難な場合は、日々の会話や表情、また、何気ない言動から、利用者の望む暮らし方や意向を把握できるよう努めている。把握した思いや意向を職員間で共有し、アプローチを試みながら、本人の思いに沿った暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各職員が入所時のインテーク等で得た、カルテ内のご本人の生活の背景の読み込み、情報収集。入所後は日常生活を通し、生活習慣等の新情報の収集に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護、看護記録等に、各職員が得た情報等を記載、記入し皆で共有する。その共有した情報をもとに、心身状況、できる能力を多角的に見て、新情報の収集に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームで、モニタリングをするなかで課題、ケアのあり方を、ご本人、ご家族等にアプローチし、検討、計画、実施、再検討と繰り返し行っております。また、その旨を介護計画にも反映しております。	担当職員を中心に、モニタリングを行い、関係者の意見や提案を集約して作成している。サービス担当者会議に参加できない家族からは、事前に意向を確認し、本人のニーズ合わせた介護計画作りに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報を作成し、情報を毎日書き加え、情報の共有に努めています。個々の報収集に対する意欲も以前より見られるようになっており、介護計画の見直しにも活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に関わり、ケアを行うなかで、既存のケア方法や関わりに固執しがちであるが、他種の方法があるのではと、小さな事から職員に、課題として提供し、多機能化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面接時等でご本人の生活状況を確認し、ご家族や知人等、ご本人の人間関係を把握し、地域との関係が切れる事が無いように努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、ご利用者、ご家族の思い、状況を伝えられるよう、両者の相談役となり、密な連絡、報告を行っております。また、かかりつけ医と積極的に関わりご利用者の支援に励んでおります。	個々のかかりつけ医と連携し、必要な情報を共有している。通院は、家族の事情により、職員が代行して受診を支援している。協力医による往診体制も充実している。夜間や急変時には、対応手順に沿って、適切な医療を受けられるよう万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の変化に伴い、介護職はその場で看護師に直接報告、アプローチがなされ、受診、看護処置等に繋がっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者の、状態変化に早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。また、搬送先病院等には、早期な情報提供をおこない、受診が円滑に行えるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化、終末期の方針をご家族より伺い、施設で行えるケア等について説明しております。その状況に際したり、向かっている際は、かかりつけ医を中心とした、カンファレンスを早期に行い、チームでの支援に努めております。	重度化・終末期の方針を定め、家族と同意書を交わしている。職員の看護師を中心に、協力医と連携し、酸素吸入や点滴等も施し、重篤で緊急性がないことを前提に終末ケアを行い、看取りの実績を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師不在時の急変時、管理者、看護師への緊急電話報告をはじめ、救急搬送に伴う、マニュアルを作成し、速やかな搬送が行える体制を整えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は防災訓練を行い、1度は地域住民や消防署員も交え、職員の防災意識の向上に努め、訓練に取り組んでおります。	防災訓練は、火災訓練を中心に実施し、1回は消防署立ち合いの下、地域住民の見学を兼ねて行っている。避難誘導や初期消火、通報訓練は、夜間も想定している。地域との協力関係があり、最小の備蓄品を確保している。	各地で多種の災害が多発している。それらに備えた、総合的な防災対策の規定づくりに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の羞恥心に配慮し、排泄介助時や入浴介助時はタオル等を使用し、露出を少なくする工夫を行っております。普段の会話の際は不快に思われる様なキーワードを探り、言葉掛けには配慮をしております。	食事中に話しかけると嫌がる人や、写真を撮られるのを拒む人もあり、一人ひとりの個性や、こだわりにも配慮をして、穏やかな言葉かけや対応に努めている。身体介助の場面では、特に羞恥心に配慮し、誇りを損ねないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の、些細な意思の表出に気づき、職員同士で、アセスメントを行い、こちらのアプローチに対し待つという時間の重要性を認識し関わられる様働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で、ご利用者の希望に沿った関わりに励んでおり、入眠傾向の利用者様への経口摂取という点では、覚醒時のタイミングでアプローチを行ったりし、その人の身体的管理という面にも努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台での口腔ケア時など、鏡に視線がいかないご利用者に対し、ご本人が持っている、美や日常エチケットなどに対するものが表出できないかと働きかけ支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備として、エプロン等をたたんで頂いたり、視覚、触感で食事を楽しんでもらえるよう努めています。その中で、安全面を第一に考慮し、出来る能力を活用し楽しめる形態の選択に努めております。	利用者も、おしぼり配りやテーブル拭きなど、できることを手伝っている。食事は、家庭的な味付けで提供され、食器のデザインも可愛らしく、利用者は毎回完食している。職員による検食制度があり、食の質を確保している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを活用し、一日をトータルした食事量、飲水量を把握しご利用者様にケア、アプローチをしております。また、食事時間のみにとらわれない、水分摂取や、回数検討を行い支援をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己で行える能力を活かし、口腔内の清潔保持に努めております。その際、自己で行えることは、時間を要しても待つという姿勢で関わり、行えてない箇所や部位に関して、ケアするという支援を行っております。		

岐阜県 グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを活用し、排泄間隔等の把握に努め、トイレでの排泄を促しております。現在可能な排泄行動の持続化や長時間のパット汚染の予防に努めております。	一人ひとりの排泄リズムに沿って、トイレでの排泄を促し、自立につなげている。個々の状態に合わせて、リハビリパンツとパッドを適切に選択し、おむつ用品の使用量削減に努めている。夜間も、適宜声をかけ、ポータブルトイレ使用は1名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェックシートを活用し、水分摂取量の把握を行っている事や日中の活動量を増やし、便秘予防に努めております。ご本人の排便周期に合わせて、緩下剤での調整も行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は決めておりますが、ご本人の希望やお身体の状態に合わせた形態でゆっくりと入浴を楽しんで頂いております。	入浴は、本人の希望に応じている。浴室は広く、窓からは、四季の移ろいが見える。機械浴を好む利用者が多く、体力的負担がなく満足感を味わっている。入浴を拒む人は、タイミングや促し方を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣に合わせた支援をさせて頂き、日中でも、状態によっては休息して頂きます。また、昼夜逆転する事が無いよう、日中は共用スペースでお手伝い等を促し、睡眠時間の確保できるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬剤情報書をファイルし、職員が副作用や用法、用量について、周知しております。また、症状の変化については、看護師を中心にモニタリングを行い、状態に合わせて、主治医との相談をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や希望に合わせた支援が行えるように、ご家族に協力を依頼し、物品の依頼や嗜好品の情報収集を行い、提供をさせて頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に合わせて、庭園や施設の外等への散歩の支援を行っている。普段は行けないような場所への外出を希望された場合に関してはご家族への協力を依頼しております。	日頃は、中庭に出て外気に触れている。庭にはパラソル付きのテーブルを備えている。近くにある公園まで散歩したり、年間行事では、地域のイベントや名所地へ出かけ、普段行けない所へは、個別に家族の協力を得て、外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては紛失やご利用者同士のトラブルになる可能性が高いため、施設で管理をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話ができる環境があるため、遠方の家族や知人と顔を見ながらの会話が楽しめます。また、手紙のやり取りに関しましても、ご本人やご家族のご意向に合わせて支援をさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはカフェスペースを設け、ご利用者同士やご家族と一緒に居心地良く過ごして頂く事が可能です。また、照明はすべて暖色系の物を使用し、ご利用者へ外の光を感じて頂ける工夫をしております。	共用の間は明るく広々としており、食堂を兼ねている。照明は暖色系で温もりがある。要所に観葉植物があり、掲示物が煩雑にならないよう、あえて抑制している。空気清浄機を複数設置しているが、一定時間をおいて、窓を開放して外気を取り入れ、気持ちよく過ごせるよう工夫している。天窓からは陽光が注ぎ、窓越しに自然豊かな景観が広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では一人の時間が確保できるように、テーブルから離れた所にソファを設置している事や気の合ったご利用者同士で過ごす事ができるように座る位置等に留意しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れた馴染みのある物をお持ち頂くようにし、生活環境に変化があっても、混乱を防ぎ、ご本人が居心地よく過ごす事が出来るように努めております。	エアコン、ベッドは備え付けであり、寝具はリース方式を利用し、清潔である。おしゃべりをする人形や化粧箱、使い慣れた椅子や、馴染みの物を自由に持ち込み、好みに配置をして、居心地のよい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の意思表示に対し、出来る事を理解し、今持つ「できる能力」のなかで、ご本人が自立心をいただいていただけのような生活、役割を職員と共に考え、支援しております。		